

東京春祭 for Kids

音楽物語

《ぞうのババール》 ～こどものころのおはなし

MuSic Story of "L'Histoire de Babar"- Le Petit Éléphant

おんがくものがたり
音楽物語《ぞうのババール》は、

フランスの^{さつきよくか}作曲家プーランクが、

ゆうじん えほん さっか
友人で絵本作家

ジャン・ド・ブリュノフの^{えほん}絵本に

おんがく つ
音楽を付けた

ピアノとおはなしによる^{さくひん}作品です。



語り
別所哲也

Reading
Tetsuya BeSsho

ピアノ
三浦友理枝

Piano
Yurie Miura



構成
杓谷直仁

Script
Naohito Hoetani



評論社

『ぞうのババール こどものころのおはなし』
ジャン・ド・ブリュノフ作 やがわすみこ訳 (評論社)

約60分のコンサートです。

好評発売中

全席自由

子ども

(3歳以上高校生以下)

¥1,500

大人(保護者)

¥2,600

2歳以下のお子様のご入場、ならびに、大人のみでのご来場はご遠慮いただいております。

4/7

11:00
[土]

東京文化会館 小ホール

April 7 [Sat.] at 11:00 Tokyo Bunka Kaikan Recital Hall

主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：株式会社ヤマハミュージックジャパン

助成：公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファンド

英雄の旅

朽木 護(音楽ライター) Mamoru Kuchiki

母が子を寝かしつけるとき、お話を聞かせる——これは今も昔も変わらぬ光景ではないだろうか。

1930年、フランス某所、ベッドに入った兄弟に母が語り始める。

「ババールという子象が森で暮らしていました。ある日、お母さん象が狩人に撃ち殺されてしまいます。怖くなったババールは町へ逃げて行きました……」

翌朝、兄弟は、アトリエで仕事をしていた父——父は画家だった——に、母が語ってくれた不思議な物語のことを話した。「面白いねえ」。たぶん、父はそんなことを言ったはずだ。彼は子象の物語をキャンバスに再現していった。

世界中で愛読されている絵本『ぞうのババール』はこんなふうにも生まれた。

絵本の作者は、ジャン・ド・ブリュノフ。ストーリーを考え出したのは、妻のセシル。あらすじを父に伝えたのは、長男のロランと次男のマチュウだった。

どこにでもある日常のひとコマからベストセラー絵本が誕生した背景には、いくつかの要因があった。

ジャンの父は出版社を経営しており、セルゲイ・ディアギレフが主宰する「ロシア・バレエ団」の作品集など、文化的な書籍を世に送り出していた。ジャンは美術学校で学び、そこでエミル・サブロウという青年と知り合う。エミルの妹がセシル・サブロウ、のちにジャンの妻となる女性であった。セシルはピアノを弾き、演奏家として活動するほどの腕前だったという。二人は1924年に結婚。翌年にはロランを、翌々年にはマチュウを授かった。

兄弟のために描いた絵本であったが、思いのほか出来が良かった。ジャンの周囲には出版に携わる人間も多く、ごく自然な流れで「本にしよう」ということになった。制作は順調に進み、1931年には早くも上梓された。「絵を原寸大で再現したい」というジャンのたつての希望から、縦36.5センチ×横26.5センチ、開くと50センチを超える大型本となった。『ぞうのババール』が瞬く間にヒットしたことは、付け加えるまでもないだろう。

それにしても、平和な生活に突如降りかかってくる「母の死」というのは、年端もいかぬ子どもに語る物語としては、いささか刺激が強すぎはしないだろうか？

しかし、絵本は売れ、今日に至るまで読み継がれている。さらには、プーランクという希代の音楽家により付曲されるというオマケまでついた。

古来、人の心をつかむ物語には、感動や教訓をもたらす黄金律が存在し、それらは「英雄の旅」と総称される。その主人公は、何らかの欠落・ハンディを背負い、ひょんなことから、全く意図していなかった「旅(冒険)」に出る。そこで多くの障害や葛藤に遭いながらも、それらを克服し、大人へと成長を遂げて、故郷に還ってくる——皆さんも、こうしたパターンに当てはまる物語を、おそらくいくつも思い浮かべることができるだろう。『ぞうのババール』は、まさに「英雄の旅」なのである。

『ぞうのババール』の出版から6年後の1937年、ジャンは37歳の若さで世を去った。その後「ババール」の物語は、父の仕事を引き継いだ長男ロランによってシリーズ化され、約50作品を数えるまでに育っていった。



朗読作品

ジャン・ド・ブリュノフ作／やがわすみこ訳：『ぞうのババール』
Jean de Brunhoff・Text & Picture / Sumiko Yagawa・trans.
"L'Histoire de Babar, le petit éléphant"

曲目

シューマン：トロイメライ《子どもの情景》op.15 より

Schumann: Träumerei ("Kinderszenen" op.15)

シベリウス：樅の木《5つの小品》「樹木の組曲」op.75 より

Sibelius: The fir ("5 Pieces" op.75)

メシアン：鳩《前奏曲集》より

Messiaen: La colombe ("Préludes")

チャイコフスキー：新しいお人形《子供のアルバム》op.39 より

Tchaikovsky: The new doll ("Children's Album" op.39)

プーランク：音楽物語《ぞうのババール》

Poulenc: "L'Histoire de Babar, le petit éléphant"



別所哲也(語り) Tetsuya Bessho(Reading)

1990年、日米合作映画『クライシス2050』でハリウッドデビュー。国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル」主宰。文化庁文化発信部門長官表彰、第1回岩谷時子賞奨励賞等。観光庁「VISIT JAPAN大使」、外務省「ジャパン・ハウス」有識者諮問会議メンバー。



三浦友理枝(ピアノ) Yurie Miura(Piano)

英国王立音楽院修士課程を首席で修了。第47回マリア・カナルス国際音楽コンクール第1位、第15回リズ国際ピアノ・コンクール特別賞他、入賞多数。国内外の管弦楽団との共演や室内楽、TV・ラジオ等で幅広く活躍。第26回新日鉄住金音楽賞〈フレッシュアーティスト賞〉受賞。

東京・春・音楽祭

-東京のオペラの森2018-

3.16 Fri. - 4.15 Sun.

春が訪れ
桜がひらいて
音楽が始まる
上野の森に

東京の春の訪れを、音楽を媒介としたお祭りで祝う——

明治以来、日本における文化・芸術の集積地として発展を続けてきた上野公園を舞台に、桜の美しい時期に1ヵ月にわたり開催する音楽祭です。東京文化会館での「ワーグナー・シリーズ」や国内外の一流アーティストによる公演をはじめ、美術館・博物館を会場とした「ミュージアム・コンサート」、無料の小さなコンサート「桜の街の音楽会」など、約150公演を開催いたします。桜が咲きほころぶ春のひとときに、上野のあらゆる場所から、色とりどりの音楽が聴こえてくる——そんな「東京・春・音楽祭-東京のオペラの森2018-」が東京—上野の春を美しく彩ります。

東京・春・音楽祭-東京のオペラの森2018-は「beyond2020プログラム」として認証されています。

東京・春・音楽祭チケットサービス [ご購入にあたって] 2歳以下のお子様のご入場、ならびに、大人のみでのご来場はご遠慮ください。

☎03-6379-5899 🌐http://www.tokyo-harusai.com/

オペレーター対応[営業時間 10:00-18:00 土日祝:休]

※音楽祭開催期間中は土日祝も営業いたします。

- チケットぴあ <http://w.pia.jp/t/harusai/> 0570-02-9999 (音声自動応答) ☎597-881
- e+ (イープラス) <http://eplus.jp/harusai/>
- ローソンチケット <http://l-tike.com/harusai/> 0570-000-407 (オペレーター) ☎32468
- CNプレイガイド <http://www.cnplayguide.com/t-harusai/> 0570-08-9990 (オペレーター)
- 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (オペレーター)

※オンラインチケットサービスのご利用は登録が必要です(無料)。※掲載の情報は2018年3月8日現在のものです。やむを得ぬ事情により、内容に変更が生じる場合がございますが、出演者・曲目変更による払戻しはいたしませんので、あらかじめご了承ください。※チケット金額はすべて消費税込みの価格を表示しております。

公演に関するお問合せ

東京・春・音楽祭実行委員会 03-5205-6497



感動をともに創る

美が響く力。

超え続けることが、在り続けること。

CFX

本公演では、東京文化会館所有のヤマハCFXを使用します。

株式会社ヤマハミュージックジャパン